

# 【著作紹介】成長神話という煩惱からいかにして金融は解脱すべきか



著者：野崎 浩成（国際学部グローバル・イノベーション学科 教授）

出版社：ディスカヴァー・トゥエンティワン

出版年：2016年10月発行

価格：2,000円＋税

ISBN：9784799319796

[所蔵状況を確認する](#)

<http://triton.lib.toyo.ac.jp/detail?bbid=U102259280>

## 内容：

成長中心の金融から、人間中心の金融へ！金融業界でフロントランナーとして活躍したトップアナリストが、仏教の世界観から提言する、持続可能な経済・社会のかたちとは。

[ディスカヴァー・トゥエンティワンの紹介ページ](#)

<https://d21.co.jp/book/detail/978-4-7993-1979-6>

---

## 教員メッセージ

---

現在のライフスタイルを維持するには、2030年には「地球が2個必要」であるという事実から、目をそむけてはいけません。

経済成長は正義という価値観は、目に見えて終わりを迎えています。本書は、仏教の考え方を金融に活かし、経済を破壊した金融に、経済を正しく導く役割を担わせようとしています。「欲しがる」行動をやめようとしないう経済を、「正しく生きる」美德界に解脱させることで、持続可能な世界のかたちを考えます。

## 目次

はじめに

### 第1章 静かに進む破たんへの道

#### 1 ありえないことが当たり前

- (1) プレクジット、独立運動、トランプ旋風
- (2) 社会民主主義色の強いリーダーへの共感

## 2 格差拡大の経済学

- (1) ファンドマネジャーと幼稚園の先生
- (2) 成功と失敗の遺伝
- (3) 格差の伝承と拡大の裏に存在するもの

## 3 地球環境の経済学

- (1) 気候変動と人口の増加
- (2) エコロジカル・フットプリント

## 4 市場経済暴走の経済学?

- (1) 無限の欲望と有限の資源
- (2) 金融は膨張する
- (3) リーマンショックが証明した欲望の連鎖

## 第2章 仏教経済学と定常経済

### 1 持続可能な社会に必要なもの

- (1) 持続可能性って本当に必要なの？
- (2) 「現代経済学」と「定常経済学」

### 2 ケインズの弟子が提唱した「仏教経済学」

- (1) シューマッハーの目覚め
- (2) スモール イズ ビューティフル
- (3) シューマッハーの思想

### 3 仏教経済学のポイント

- (1) 仏教の基本思想
- (2) 仏教経済学の土台となる思想
- (3) 労働とは何か？
- (4) 「消費」をどう考えるか
- (5) 交易は人々を豊かにするか
- (6) 再生可能性の視点で見る仏教経済学
- (7) 成長か安定か
- (8) 仏教経済の行動原理
- (9) 市場主義と仏教経済学

### 4 自然科学と社会科学をつなぐ定常経済

- (1) デイリーに影響を与えた学者～フレデリック・ソディ
- (2) デイリーに影響を与えた学者～ニコラス・ジョージesk=レーゲン
- (3) デイリーの定常経済への道
- (4) 経済と地球の上下関係
- (5) 「成長」と「発展」の違い
- (6) グローバリゼーションと経済成長の副産物
- (7) デイリーの提案

### 第3章 金融はパンドラの箱か

#### 1 自省する金融

- (1) 学者たちの反省
- (2) 監督強化の動きと金融市場の本質
- (3) 金融の力パワーの使い方

#### 2 そもそも金融とは何か？

- (1) 金融と貨幣
- (2) 金利が意味するもの
- (3) 実物経済と乖離する拡大する金融

#### 3 金融に向きあう宗教の苦悩 191

- (1) 教義と生活のジレンマに悩む宗教
- (2) イスラム教における利息の禁止
- (3) ユダヤ教およびキリスト教における利息の禁止
- (4) 宗教観と利息の禁止についての考察

#### 4 持続可能性の視点からの金融

- (1) 我が国における仏教と金融
- (2) 地域通貨という発想

#### 5 金融は経済・社会を変えるほどパワフル 220

- (1) 金融こそが経済を動かす
- (2) 日本を変えた金融の力?変革前夜
- (3) 日本を変えた金融の力?欧米型ガバナンスへの転換
- (4) 株式資本主義へ傾注する日本
- (5) 経済の血液=信用を運ぶ血管
- (6) 短期的合理性追求と長期的衰退

### 第4章 仏教と日本的思考の美德～ 持続可能性を高める金融へのインプット

#### 1 日本的経営の再考

- (1) 欧米投資家の不満と日本の経営者の戸惑い
- (2) 日本の経営者が疑問に思うこと
- (3) 日本の経営者の宗教・文化的背景

#### 2 仏教の世界観からの再考

- (1) 金融市場での倫理観欠如と仏教の価値観?アメリカからの声
- (2) 金融市場での倫理観欠如と仏教の価値観?イギリスからの声

#### 3 仏教の精神が金融を、そして世界を救う

- (1) 仏教精神の柱としての「利他」
- (2) 空海からのメッセージ
- (3) 仏教から見出せること

## 第5章 仏教ファイナンスと持続可能性

### 1 定常社会・定常経済の実現

- (1) 目指すべき到達点はどこか？
- (2) 持続可能という到達点に向けて必要なこと
- (3) 現実の軌道修正のために期待される金融の役割

### 2 定常社会・経済に導く「仏教ファイナンス」

- (1) 「仏教ファイナンス」というネーミング
- (2) 仏教ファイナンスの基本的な構成

### 3 仏教ファイナンスと行政

- (1) 金融の「ほどほど」化
- (2) 税制・補助金による環境インセンティブ付け
- (3) 定常経済で社会保障はどうなるのか

### 4 仏教ファイナンスと資本市場

- (1) 株主ポートフォリオ最適化戦略
- (2) ステークホルダー間のバランスを考えた経営指標
- (3) 金融市場からではない、運用者からの企業に対する規律付け
- (4) 機関投資家への業績報告をもっと簡素に

### 5 仏教ファイナンスと銀行

- (1) 持続可能性に向けた銀行の施策
- (2) 社会の範たる銀行へ

おわりに

参考文献

## [著者] 野崎 浩成 (ノザキ ヒロナリ)



1986年慶應義塾大学経済学部卒。1991年エール大学経営大学院修了。博士(政策研究、千葉商科大学)。埼玉銀行、HSBC、シティグループ証券マネジングディレクター、千葉商科大学大学院客員教授などを経て2015年4月より現職。

米国CFA協会認定証券アナリスト、日本証券アナリスト協会検定会員。2010年日経アナリストランキング総合1位(全産業)、日経アナリストランキング1位(銀行部門、2015年まで11年連続)、インスティテューショナル・インベスター誌1位(銀行部門、2013年まで10年連続)。2015年金融審議会専門委員。

著書に『トップアナリストがナビする金融の「しくみ」と「理論」』(同文館出版)、『銀行』『バーゼルⅢは日本の金融機関をどう変えるか(共著)』(以上、日本経済新聞出版社)、『銀行の罪と罰』(蒼天社出版)、『銀行のグループ経営(共著)』『グローバル金融システムの苦悩と挑戦(共著)』(以上、金融財政事情研究会)などがある。

## 関連リンク

[東洋大学研究者情報データベース（野崎浩成教授）](#)

<http://ris.toyo.ac.jp/profile/ja.08cae0a60c6f5e8f7063733cd9177903.html>